



東雲つみ

アンコール掲載
ハカ売れGカンパ

園都

川島なお美
坂口良子
中島史恵
ほか15人
女優の黒パンティ



タイバ重視袋とじ



80年代女優の濡れ場
54シーン 一気見!

ついに
出た!

AI女性器 衝撃の細部

家族バレしないエロ動画

弘中アナ 産休の秘 代役 藤井聡太 八冠阻む宿敵
元鶴竜 1億円断髪式 小室圭さん リストラ危機

河野太郎の
詭弁を許すな

警報 6/21までに関西でM6!
全国の「地震の巣」が動き出した



梅雨晴スペシャル特大号
大谷「HR弁当」の中身
2023年6月9日(金)発行 発行所：読売新聞社 発行部：読売新聞社 発行部：読売新聞社 発行部：読売新聞社
2023 Jun. 6.23 特別価格540円



岸田バカ息子が公邸追放、
広島で「立候補準備」へ

マイナ返納

怒りの国民運動が始まった

球界OB20人に聞く
WBC監督の名前

危険な医師を見抜く
122の心得
健康なのに病人扱い
厳しすぎ基準値でいらぬ薬を大量処方
体に悪いムダな検査を盲信、がんひざ・腰の危険な手術を強行
階層格差と陰湿いじめの地獄
ルポ タワマンなんて住まなきやよかつた

ガシー「逮捕直前の肉声」
元朝日記者 伊藤喜之
100万円が4億円に、AI関連第2のエンビディア銘柄33

学芸会票消滅で落選する自民議員20人



【日本株「急上昇」に乗っていいけ!】

20年で100万円が4億円になった「エヌビディア」に続くのはどこだ

株価10倍、100倍へ急騰も!



次の大化け銘柄33

日経平均株価がバブル後最高値を更新した。この「大波」に乗って資産を殖やしたいところだが、どんな銘柄を選べばいいのか。将来大化けする「お宝銘柄」を発掘できれば、資産が数百倍になる可能性も秘めている。

海外投資家が熱視線

成長著しいある企業が、米国で8社目となる「1兆ドルクラブ」に仲間入りした。

GPU(画像処理半導体)の設計・開発を手がけるエヌビディアだ。

世界的な需要拡大から株価は上がり続け、5月30日にはついに時価総額が一時「1兆ドル(約140兆円)」に達した。

米国では「時価総額1兆ドル」が巨大企業の一つの指標となっているが、これまではグーグル(アルファベット)やアップル、電気自動車(EV)メーカーのテスラ、サウジアラビアの国有石油会社サウジアラムコなど7社だけだった(下図参照)。

米国株全体の牽引役と

なったエヌビディアだが、創業は1993年と若い。20年前の同社の株価が1ドル前後だったことを考えると、直近の株価はそこから400倍に高騰している。仮に20年前、100万円分の同社株を購入して保有していた人は、4億円以上の価値になっていたということだ。

株の世界では買値の10倍以上に「化ける」銘柄を「テンバガー」と呼ぶが、現在のエヌビディアはそれを遙かに超えるインパクトを市場に与えた。株価急騰の理由を、多摩大学特別招聘教授の眞壁昭夫氏はこう見る。

「ビットコインなど暗号資産の取引の際に必要なチップの供給などで注目

されたきたエヌビディアですが、近年はChatGPTなど生成AI向け半導体の開発体制を強化しており、同分野の成長期待の高まりから株価が急上昇したと見られます。6月2日までの年初来で、同社の株価は169%上昇。同期間のナスダック総合指数の上昇率26%と比較すると、いかに群を抜いているかがわかる」

世界的巨大企業「1兆ドルクラブ」の面々

企業名	事業内容
アルファベット	世界最大の検索サービス「グーグル」の親会社
アップル	「MacBook」や「iPhone」などを製造
メタ	世界規模のSNS「フェイスブック」を運営
アマゾン	インターネット通販事業の世界最大手
マイクロソフト	Windowsなどのソフトウェア開発企業
テスラ	電気自動車(EV)製造・販売の先駆者
サウジアラムコ	サウジアラビアの国有石油会社

米新興企業のオープンAIが開発したChatGPTの公開後、世界中で生成AIの開発競争が加速している。マーケットバンク代表の岡山憲史氏はこう言う。

「ビッグデータを処理する生成AIには1万個の半導体が必要だと言われており、エヌビディアはその8割のシェアを握っています。時価総額1兆ドル超えは半導体企業として初めてのことです」

翻って現在、日本の株式市場には海外の投資家から熱い視線が注がれている。

「日経平均株価は5月17日に3万円の大台に乗せた後、6月5日に3万2000円台を33年ぶりに突破と、日本株上昇の勢いは際立っている。相場を牽引する主体は「海外

投資家」です。4月の買い越し額は4兆9760億円、5月も26日までの合計で3兆1193億円の買い越しとなっていた。短期筋だけでなく、中期の機関投資家も確実に日本株の資産配分を増や

「新薬開発」にも注目

目利きによる「次のエヌビディア」期待銘柄は次の表に示した通りだ。グローバルリンクアドバイザーズ代表の戸松信博氏は、大化け銘柄の選び方をこう語る。

「10倍、100倍を目指すとすると、時価総額の低い小型株であり、かつ、技術力や販売力など定性的面で大きな強みを持つ企業になると思います」

前出・岡山氏は日本企業のなかでも化ける可能

性があるのは「エヌビディアに近い業態」と読む。「エヌビディアと同じくファブレス(製造工場を持たない)形態の半導体企業ソシオネクストや、半導体工場を顧客に持つシステム・ソフトウェア開発のティアンドエスなど、半導体やハイテク関連株のなかから大化け銘柄が生まれる可能性が高いと見ています」(岡山氏)

カブ知恵代表の藤井英敏氏が挙げた10銘柄も、すべて「AI関連」だ。「AI」というプラットフォームで走れる日本企業に目を向けるべきです。ブルームバーグによれば、

プロが選んだキーワードは「AI関連」、そして「未来の1兆ドル企業を探せ!」

株価10倍・100倍へ急騰も！
次の大化け銘柄③

将来的に10倍、100倍も狙える日本株②

『週刊ポスト』次号(6月30日・7月7日号)は6月19日(月)発売です
一部地域で発売日が異なります

企業名(市場・証券コード)	株価	注目ポイント
メディシノバ・リンク (S・4875)	304円	米国本拠の医薬品開発ベンチャー。米国生物医学先端研究開発機構との共同開発に注目が集まる
セカンドサイトアナリティカ (G・5028)	1314円	AIを活用したビジネスコンサルティングを手がける。株価に出遅れ感があり、今後の上昇に期待
FIXER (G・5129)	2241円	クラウド環境で動作するシステム開発などを手がけ、ChatGPTを使った行政サービスの実証実験中
pluszero (G・5132)	7940円	現在の生成AIを第3世代として、「第4世代」となる次世代AIの「AEI」の開発を進める。株価に値頃感
スマートドライブ (G・5137)	3345円	モビリティデータ(自動車から収集するデータ)を活用した各種サービスなどを提供。海外向けに拡大
Arent (G・5254)	6740円	建設業界を中心としたDXコンサルティングなどを手がける。主力のプロダクト共創開発事業が好調
トランザクション・メディア・ネットワークス (G・5258)	1765円	電子マネーを中心としたキャッシュレス決済サービスなどを行なう。小売店など加盟店獲得件数が堅調
Ridge-i (G・5572)	3420円	AI・ディープラーニング技術のコンサルティング。画像処理などに使うAIに技術的な強みを持つ
ソシオネクスト (P・6526)	1万8900円	ファブレス(工場を持たない)形態による先端半導体の設計・開発・販売を手がける。今後の拡大に期待
TDSE (G・7046)	2761円	AI技術を構築するデータサイエンティストやエンジニアを多数抱える技術者集団で安定的な収益基盤を持つ
アイドマ・ホールディングス (G・7373)	2412円	中小企業の営業を支援するセールステックカンパニー。非対面型の営業代行サービスに強み
AZ-COM丸和ホールディングス (P・9090)	2087円	小売業に特化した物流事業者。アマゾンジャパンが最大の顧客で、売り上げの約24%を占める
ブティックス (G・9272)	2225円	介護業界に特化したマッチングサービスを提供。M&A仲介で業界一の実績を持つ。増収増益が続く
INTLOOP (G・9556)	6860円	経営コンサルティングやデジタルコンサルティングなどを行なう。DX化の恩恵を享受し、急成長が続く

企業名は証券コード順に並べた。市場はP(プライム)、S(スタンダード)、G(グロース)。「株価」は6月6日終値(単元株数はいずれも100株)。

「あえて言えば、『人の行く裏に道あり花の山』という相場格言でしょう。世界的に出遅れている日本株に大量の資金が流入する一方、中国株は業績に比してかつてないほどの割安水準。こうした流れが(時間はかかっても)中国株に再来すると考えれば、今は中国株を安値で仕入れる大チャンスと言える。すでに高値圏にある米国株より中国株のほうが上昇余地は遙かに大きいでしょう」

戸松氏は中国のIT大手テンセント、ITコングロマリットのアリババ、スマートフォンメーカー・シャオミが大きな株価上昇を期待できるもの

と見ている。

なかでも、アップル、サムスンに次ぐスマホ世界シェア3位のシャオミには、24年発売予定の「EV」に期待がかかる。

「5・8億人を超えるシャオミ・ユーザーの多くは、EVを待ち構えている米アップルのファン同様、同社製EVが登場すれば購入を検討する可能性が高い。以前から一貫して『スマートフォン×AIoT戦略』を唱えるシャオミの事業にEVが加われば、より一層、AI関連としても注目度が高まり、長期的な魅力が高まるでしょう(戸松氏)」

日本株29銘柄と合わせて計33銘柄。このなかから大化けする銘柄が出てくれば、「億り人(投資によって資産が1億円を超えた人)」も夢ではない。生成AIの登場が人類社会のあり方を変える可能性が高い以上、投資においてもチャレンジの機会が到来したかもしれない。

企業名(市場・証券コード)	株価	注目ポイント
ケアネット (G・2150)	845円	医療情報専門サイトを運営。日本の全医師の約60%、専門診療科では70%以上をカバーし、拡大傾向
JTP (S・2488)	1187円	最新のAI技術や顧客ニーズに対応したプラットフォーム導入で企業を支援。時価総額が小さく上昇余地大
ビューティガレージ (P・3180)	3620円	プロ向け理美容商材通販サイトの最大手。店舗設計、開業支援や集客支援なども手がけ、成長続く
ブレインパッド (P・3655)	973円	AIを活用した企業データ分析が主力。伊藤忠商事と「生成AI研究ラボ」を共同設立し、今後に期待
ユーザーローカル (P・3984)	2562円	AIを使った業務支援ツールを開発・提供。ChatGPTなど最新生成AIを安全利用できる対話型AIを発表
ヘッドウォータース (G・4011)	2万6100円	エヌビディア関連のマクニカとの協業やソニーグループとの連携などで「AI関連のエース級」として急成長
ティアンドエス (G・4055)	2843円	半導体工場向けシステム開発やAI関連のソフト開発を行なう。相次ぐ半導体の工場増設計画が追い風
プラスアルファ・コンサルティング (G・4071)	3210円	ビッグデータを可視化するデータ分析プラットフォームを提供。人材活用システム「タレントパレット」で高成長
Appier Group (P・4180)	1488円	販促分野でAIを活用したサービスを開発・提供。台湾発の企業で、今後も大幅な増益が見込まれている
ビジョナル (G・4194)	7980円	ハイクラス人材に特化した会員制転職サイト「ビズリーチ」を運営。人材関連以外にも多角化を進める
エクサウィザーズ (G・4259)	641円	AIを使ったソリューションなどを提供。AIプラットフォームに蓄積された豊富な知見やデータが強み
ユークス (S・4334)	1966円	ゲームソフトの受託開発のほか、パチンコ、パチスロ、モバイル分野でも複数の開発を進め、業績好調
HEROZ (P・4382)	1780円	AIによる市場予測などBtoBサービスを提供。NTT系企業などと新規プロジェクトを始動。期待高まる
キャンバス (G・4575)	1289円	すい臓がんの治療薬を開発する創薬ベンチャー。米国で進める治療薬の第2相臨床試験に成功している
ステムリム (G・4599)	1021円	大阪大学発のバイオベンチャーで自己修復力を高める再生誘導医薬品を開発中。治験の成功がカギを握る

生成AI市場は今後10年間で42%拡大し、180兆円市場になると見られています。企業向けにAI活用のソリューションを提供するヘッドウォータースをはじめ、AI関連の小型成長株10銘柄を選びました(藤井氏)

一方、戸松氏はAI関連以外からも独自性を持つ企業を推奨している。「運営するプロ向けECサイトが急成長中の美容商材卸ビューティガレージや、業界向けに医療情報を提供するサイトを運営するケアネットなどは、今後も順調な事業拡大が見込まれ、株価の上昇余地が大きいと考えられる。」

「運管するプロ向けECサイトが急成長中の美容商材卸ビューティガレージや、業界向けに医療情報を提供するサイトを運営するケアネットなどは、今後も順調な事業拡大が見込まれ、株価の上昇余地が大きいと考えられる。」

岡山氏が「次のエヌビディア」になる可能性があると期待するのは、米企業インテグリスだ。「マサチューセッツ州ビレリカを拠点とする半導体製造業向けの材料サプライヤーです。半導体製

いずれも、既存業界のDX化などに大きく貢献する企業です。物流業界ではアマゾンジャパンやニトリ、良品計画など小売大手を顧客に持つAZ-COM丸和ホールディングスに注目したい」

岡山氏は、コロナ禍を経て新薬開発などに関心が高まるなか、バイオベンチャー株に注目する。「株価大化けの可能性は新薬開発のバイオ関連セクターにもある。米国が本拠で米市場にも上場する医薬品開発ベンチャーのメディシノバ・リンク、すい臓がんの治療薬開発を行なう創薬ベンチャーのキャンバスに注目です」